

# 特別セミナー

## 障害があっても安全・安心に スポーツに取り組むことができる環境づくり

1. まとめ・講演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1  
「障害があっても安全・安心にスポーツに取り組むことができる環境づくり」  
北九州市障害者スポーツセンター アレアス 障害者スポーツ指導員 田中 八恵 氏  
「障害があっても安全・安心にスポーツに取り組むことができる環境づくり  
～医療面からのサポート～」  
小倉リハビリテーション病院 医長 山本 美江子 氏  
「障がい者も健常者も共に考え楽しむスポーツ活動～スポーツによる共生社会を目指して～」  
北九州市立大学 基盤教育センター 准教授 山本 浩二 氏
2. 特別講座  
「障がい者のスポーツ活動を目指して」  
九州栄養福祉大学 学長補佐 橋元 隆 氏
3. 参加者アンケート結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

# 令和元年度 地域リハビリテーションケース会議特別セミナー まとめ

日 時:令和元年8月27日(火)18:30~20:30

場 所:ウェルとばた 中ホール

テ ー マ:障害があっても安全・安心にスポーツに取り組むことができる環境づくり

参 加 者:133名

司会進行:九州栄養福祉大学 学長補佐 橋元 隆 氏



## 1. 講演の概要

地域リハビリテーションケース会議は平成15年度より開始し、今回、初めて障害者スポーツがテーマをテーマとして開催した。障害があっても安全・安心にスポーツに取り組むことができる環境づくりとして、医療機関とスポーツ施設との連携、障害者も健常者も共に考え楽しむスポーツ活動を紹介。障害者スポーツによる仲間との交流(つながり)や自己実現から、その人らしいいきいきとした暮らしにつながっていくこと、地域での連携によるスポーツに取り組むことができる環境づくりについて考える機会となった。日本の障害者スポーツのこれまでの取り組みやリハビリテーションの関わりについても学ぶことができた。

## 2. 講演(添付資料参照)

### (1)「障害があっても安全・安心にスポーツに取り組むことができる環境づくり」

**北九州市障害者スポーツセンターアレアス 上級障がいスポーツ指導員 田中 八恵 氏**

アレアスでは、スポーツ活動を通じ、障害者の体力増進及び残存機能の維持向上、その他市民の心身の健全な発達に資することを目的として、様々な事業や教室を行っている。

「なんでも相談事業」では、アレアス職員が幅広く相談対応を行い、相談者ができる事を一緒に探している。相談対応の中で、障害のある方は日常生活の様々な場面で努力していることが多いためスポーツをする時は頑張らなくてよいと伝え、楽しんで取り組んでもらえるようにサポートしている。児童に関しては、スポーツ活動を通じて自信がつくことで生活の幅が広がっていく子供も多いことから、安全・安心に楽しみながら1時間程度の運動が行うことを目標にスポーツ活動を行っている。

「ストレッチ教室」では、障害のある方と健常者が一緒にスポーツ活動を行っており、言葉で伝えるよりも、障害に対する理解が進みやすいことから、共生社会の実現に役立っていると感じている。

障害者スポーツ指導員として一緒にできることを探し、障害のある方が自信をつけ生活の幅を広げていただきたいと思っている。障害のある方は、身体の動きや生活スタイル等もそれぞれ異なるため、その方に合ったスポーツ活動を今後も一緒に探していきたいと思っている。

## **(2)「障害があっても安全・安心にスポーツに取り組むことができる環境づくり～医療面からのサポート～」**

**小倉リハビリテーション病院 医長 山本 美江子 氏**

病院スタッフに声をかけられて障害者スポーツに関わるようになった。障害者スポーツの効果は、健康増進・リハビリテーションから主体性の向上と社会参加へつながっていく。その中でも人との交流（つながり）や自己実現は重要であり、仲間ができて、一体感が生まれることでその人らしい、いきいきとした暮らしへつながっていく。障害者スポーツを通じて地域交流や社会参加を目指していくため、スポーツ施設と医療機関連携が重要であると考え、現在、アレアス教室にリハ専門職を派遣している。リハ専門職とアレアス職員で、目標設定やリスク管理などの情報を共有することで、適切な支援が行えるようになり、地域交流や社会参加の機会が増えてきている。障害者スポーツを通じて、地域の中で様々な職種が連携して支援することが重要である。

専門職も障害者スポーツ体験を行い、高齢者・障害者等にアレアスの利用を勧め、活用してほしい。

## **(3)「障がい者も健常者も共に考え楽しむスポーツ活動」～スポーツによる共生社会を目指して～**

**北九州市立大学 基盤教育センター 准教授 地域創生群 山本 浩二 氏**

歴史的背景として、障がい者スポーツと健常者スポーツでは管轄が異なり分けたことで観る観る人の「観方」にも差異があった。2015年にスポーツ庁が新設されたことにより、健常者スポーツと障がい者スポーツの交わるところに共生社会ができると期待している。

車いすソフトボールは、障がいの有無や老若男女を問わず誰でも一緒にプレーできるスポーツであり、利点は障がいのある方も、無い方も同じチームで一緒にプレーをすることで経験から障がいに対する理解学ぶことができる。

今後は、車いすソフトボールをパラリンピックの正式種目となるよう目指していきたいが、パラリンピックの種目では障がい者しか出場できないことから、健常者と障がい者が一緒に行うことができる車いすソフトボールの良さがなくなってしまうことが、今後の検討課題となる。

### **3. 特別講座(添付資料参照)**

**九州栄養福祉大学 学長補佐 橋元 隆 氏**

障害者スポーツのこれまでの取り組みとリハビリテーションの関わりについて学ぶことができた。

#### 4. 特別セミナーのまとめ

小倉リハビリテーション病院 名誉院長 浜村 明德 氏

地域リハビリテーションの定義では、「スポーツ」はもちろんのこと、「芸術」もある。カナダでは障害のある方と一緒にオペラを練習している地域があり非常に好評である。これからは、アクティビティ（趣味）に関して多角的な視点で取り組む必要があり、またリビング（住まい）や交通問題など様々な課題があり、その人らしく地域で充実感をもって住み続けるためには、医療・福祉・介護の世界だけではない課題にも関心を持つ必要があると思う。

障害があっても視野や可能性を広げて活動を行い、満足感や達成感を得ていくことが大事である。

# 障害があっても安全・安心にスポーツに 取り組むことができる環境づくり

北九州市障害者スポーツセンターアレアス  
上級障がい者スポーツ指導員  
田中 八恵 (たなかやえ)

## 【アレアスとは？】



## 【アレアスとは？】

アレ・・・ドイツ語で「みんな」という意味の  
「a l l e (アレ)」  
アス・・・アスリートの「アス」  
明日 (未来) という意味

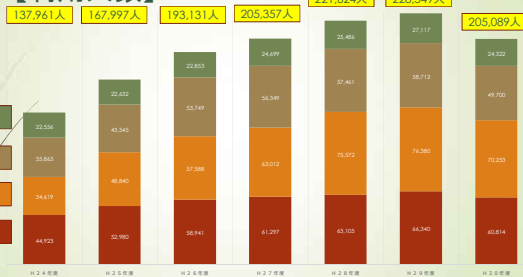
障害のある人、ない人、“みんながアスリート”  
みんながスポーツを楽しめる、  
そして未来に生きがいを持てる、そんな想いが込められています。

## 【アレアスとは？】

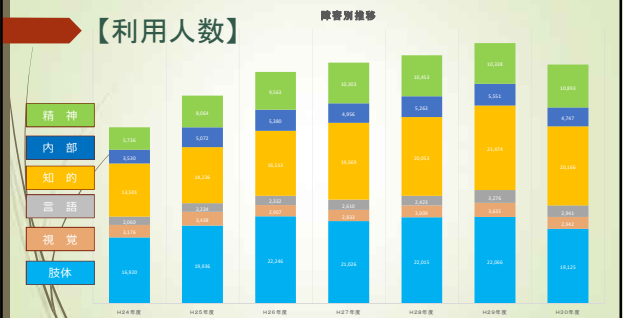
設置目的 (指定管理)

スポーツ活動を通じ、  
障害者の体力の増進及び  
残存機能の維持向上、  
その他市民の心身の健全な発達に資す  
ることを目的とする。

## 【利用人数】



## 【利用人数】



【ロビー】



【卓球室 1】



【卓球室 2】



【トレーニング室 1】



【トレーニング室 2】



【プール 1】



## 【プール2】



## 【年間事業】

生涯スポーツ支援Ⅰ	生涯スポーツ支援Ⅱ	大会・イベント事業
障害者スポーツリハビリ専門相談	レベルアップ水泳教室（成人）	第16回交遊ポッチャ大会
障害者スポーツなんでも相談	レベルアップ水泳教室（児童）	第12回小学生ふようせんぱいボール大会
リズム運動教室	水中運動教室	アレアフェスタ
トレーニング教室（朝）	入門水泳教室（成人）Ⅰ～Ⅴ	アレアプールなんでも影絵会
トレーニング教室（夜）	入門水泳教室（児童）Ⅰ～Ⅴ	トレッキング教室
児童スポーツ教室	水中わいわい教室	バスハイク
初心者卓球教室	親子水泳教室	スポーツボランティアの養成
卓球バレー教室	脳血管障害の方の水中教室	※巡回スポーツ教室
みんなのストレッチ教室		※巡回水泳教室
		※巡回水泳入れ教室

## 【☆何でも相談事業☆】

「何が出来るかわからない・・・」  
 「トレーニングしたいが・・・」  
 「プールに入りたいが・・・」  
 「運動を勧められたが、  
 何をしたら良いのか・・・」

## 【☆ストレッチ教室☆】



## 【協力体制・連携】（一部）

北九州市障害者スポーツボランティアの会  
 (SKET)

北九州市立大学地域創生学群・実習

九州医療スポーツ専門学校（AT学科）・実習

## 【医療職との連携】

「障害者スポーツリハビリ相談」

九州栄養福祉大学

橋元先生

小倉リハビリテーション病院

山本先生

九州労災病院

橋先生

「障害者スポーツ医」

※日本障がい者スポーツ協会が認定する資格

## 【医療職との連携】

☆今年度からの新たな取り組み

### リハビリ職 を 教室に派遣

トレーニング教室

- ①朝コース（第2・4 日曜日午前中）
- ②夜コース（第1・3・5 木曜日夕方）

脳血管障害の方の水中教室

- ③（第2・4 金曜日夕方）

## 【今後の課題】

- 受け皿の拡充
- サポートスタッフの確保
- 障害者専用時間（優先時間？）の拡大

etc . . . . .

## 【独り言】



nikoniko



8080



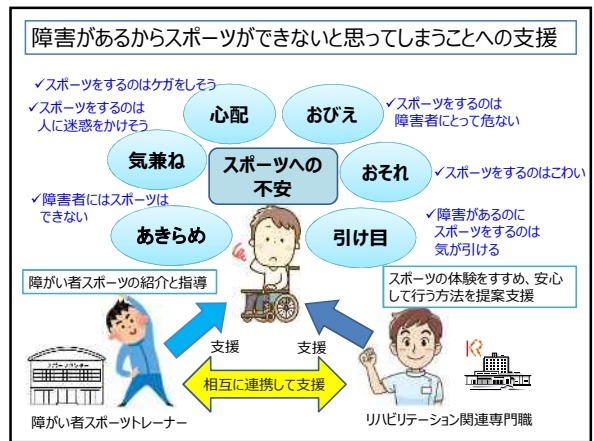
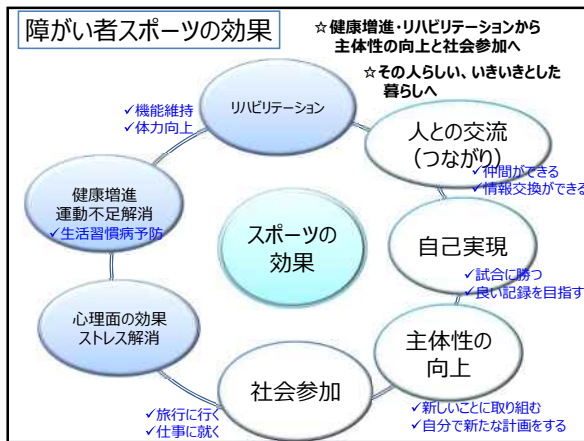
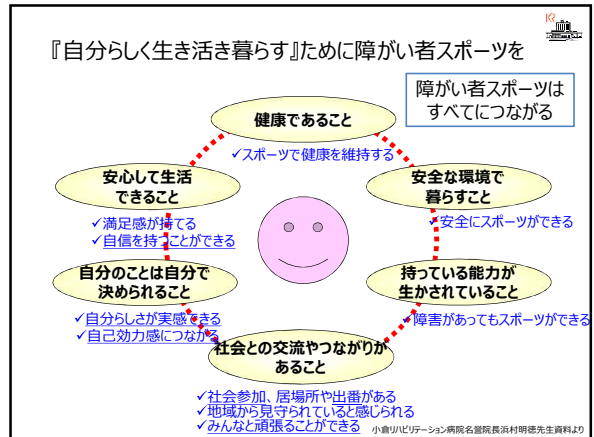
ご清聴ありがとうございました



## 「障害があっても安全・安心にスポーツに取り組むことができる環境づくり～医療面からのサポート～」

北九州市障害者スポーツセンターアレアスと  
小倉リハビリテーション病院の連携  
スポーツから社会参加を目指して

医療法人共和会 小倉リハビリテーション病院  
診療部 医長 山本美江子  
(日本障がい者スポーツ協会認定障がい者スポーツ医)



### アレアス：障害者スポーツリハビリ専門相談

- 障害者の方の障害状況や体力に応じた専門的なスポーツ活動に関する助言を図ることを目的に開催。
- 1人30分～60分をかけて、さまざまな相談にのっている。
- 毎月第2日曜日10：00-12：00（予約制）

担当：九州栄養福祉大学 橋元隆先生  
小倉リハビリテーション病院診療部 山本美江子 など

スポーツを始めることが不安な方はまずは相談からどうぞ

具体的には  
☆スポーツの際に気になることについての対処方法  
例：走る時に踵接地不十分なことはどうしたら良いか  
しびれをどうにかしたい  
どのくらい運動はしたら良いか

☆治療についての相談  
例：アキレス腱延長術は受けた方が良いだろうか  
北九州市にリターンしてきたがリハビリはどうしたら良いか など

### アレアスと小倉リハビリテーション病院の連携

アレアスへのPT・OTの派遣（月3回）

- ☆トレーニング教室（朝）
- ☆トレーニング教室（夕）
- ☆脳血管障害者水泳教室

☆2019年5月よりスタート

- ☆利用者の疾患や障害、生活状況についての情報を共有
- ☆教室後には毎回30分程度のミーティングを開催し振り返りを行い将来的な社会参加についても検討

トレーニング教室（朝：第2・4日曜日）

『目的』  
トレーニング教室を通して、社会参加につながることや、生きることの楽しさを一緒に見出すきっかけを提供する

『内容』

- 1) 利用者への運動指導と負荷量設定
- 2) アレアススタッフへの運動動作・負荷およびリスク管理への助言、専門的知識の提供
- 3) 利用者の社会参加への検討と支援

障がい者スポーツトレーナー ← 課題を共有 → リハビリテーション関連専門職

『個別の目標設定を共有』  
・リスク管理のため  
・疾病や障害の  
・情報を把握

『専門職としての対応』  
・脈拍の測定方法や基準値の伝達  
・適宜息を吐きながらエクササイズを  
・行うよう促す事を提案  
・プールサイドの歩行の確認  
・痙性のコントロール  
・ホワイトボードで意思確認  
・（失語症のため）  
・低体温への注意  
・家族の不安への対応と説明

『実際の指導』  
・エクササイズ指導  
・プールでのウォーキング  
・指導  
・水泳指導

支援 ← 支援 →

ジャグジー利用練習(低体温予防) 痙性への対応(水中でストレッチ) 水中でのリラクゼーション

### 小倉リハビリテーション病院地域交流会 (オープンホスピタル) にて障がい者スポーツとアレアスを紹介

障がい者スポーツの魅力  
☆子どもや高齢者と一緒に気楽に楽しめる  
☆誰でも楽しくプレイでき、ケガのリスクも少ない  
☆そこで出会う人との交流と情報交換  
☆達成感、仲間との出会い

アレアスのスポーツクラブの紹介

### 小倉リハビリテーション病院での障がい者スポーツへの取り組み～病棟でのフリータイムや行事での紹介～

『障がい者スポーツ紹介コーナー』  
地域交流会や秋祭り等の行事では  
ポッチャや卓球バレーの体験会を開催

PT・OTがプロボノ(専門職ボランティア)として活躍

『回復期リハビリ棟』で卓球バレーの体験会を開催  
19時からのフリーな時間となった  
笑顔があふれる楽しい時間となった  
(人との交流とストレス解消の効果)

### 若年中途障害者の会『スマイル』: アレアス指導員田中八恵氏による講演とポッチャ体験会

若年中途障害者の会『スマイル』  
中学生～30歳台の若年中途障害者による  
患者会。進学や就職についての取  
組みや、日々の生活や体験についての  
情報交換と交流を行っている。  
社会貢献も目指している。

アレアス・田中八恵氏より、  
① 障害者スポーツセンターアレアスの紹介  
② 障がい者スポーツのすすめ  
③ ポッチャの体験指導 を頂いた。  
(小倉リハビリテーション病院にて開催)

### 若年中途障害者の会『スマイル』のポッチャ大会への参加

下関はーとふりいポッチャ大会2019

- ・下関市まで会のみんで出かけたのは初めての経験
- ・山口県大会優勝歴のある高齢者障害者のチームに惜敗したが、交流になった
- ・健全者の若者チームとも対戦し交流
- ・事前の練習も行ない他のメンバーも含めて団結できた

中学生と社会人(20～30歳台)の4人でチームを結成

沢山の人のつながりに

審判も障害者が行っている

家族もスタッフも真剣に応援し「絆」につながった

### 『スポーツをやるのが自分を強くしています』 「若年中途障害者の会・スマイル」会長の水泳への取り組み

『スマイル』での報告  
片麻痺となっても  
サッカーもできる  
野球もできる  
障害者水泳大会では金メダルもとれた  
公務員として働くこともできている

スマイルメンバーの高校生や大学生の進路相談も受けている  
⇒影響を受けてスポーツを始めたメンバーもいる

### 『人生を変えるのは今かもしれないという思いでチャレンジしている』 パラパワーリフティング




中3の冬に倒れ、特別支援学校、職業訓練校を経て中学校事務職員。  
パラパワーリフティングに取り組み仲間ができたことで「自分は大きく変わった。」と思っている。  
若年中途障害者の会『スマイル』でいつも元気な近況報告をしてくれている。  
メンバーみんなの相談にもっている。




毎日新聞掲載

### デイケアを卒業して、アレアスでの自主練習へ



82歳男性  
脳幹梗塞左片麻痺  
自宅内歩行なし歩行  
短時間デイケアの後にアレアスでの水泳教室とジムの自主練習を継続

御本人談：  
水泳が好きだったから楽しいです。  
温泉に行きたいですね。

短時間デイケアの際に担当PTと共にアレアスを体験し、水泳教室にて水中ウォーキングを行なっている



☆入院中から健康管理と運動継続のための方法の一つとして障がい者スポーツを検討する必要がある  
☆リハ総合説明やリハ会議にて、アレアス利用の提案と体験を相談することがポイント  
☆体験の際にはアレアスに連絡して支援を依頼し、可能であれば担当PTなどが同行することも重要→連携によって安心につながる

### 当院回復期リハ退院後フィットネスデイケアを利用中 アレアスで「もう一度水泳をやりたい」という思いを実現



失語症の会『筍の会』でも活躍中



アレアス「なんでも記録会」では当院デイケアスタッフも応援に駆けつけた




脳梗塞による右片麻痺と重度失語症が残存  
☆元々マスターズの水泳大会で優勝歴あり  
水泳をもう一度やりたいと思い、アレアスで指導を受け、週2-3回利用している  
☆右片麻痺でもまっすぐ泳ぎ、記録を更新中

### 患者会と障がい者スポーツ 片麻痺体験者の会「陽向（ひなた）」

当院を退院されて患者同志が交流を継続したことより始まり、以下の活動を行なっている。

- ① 情報を必要としている脳卒中患者への当事者の立場からの情報提供
- ② 社会貢献を目指した活動
- ③ 当事者同志の交流と情報交換

月1回当院での交流会や、片手料理会、ハイキングや博物館への外出などを行なっている。障がい者スポーツも開始。  
近隣市町の片麻痺患者会との交流を行なっている。



グリーンパークでグランドゴルフ

・片麻痺でもスポーツを楽しむことができる  
・スポーツは交流につながる

アレアスを紹介し、ポッチャクラブに参加されている方もいる

### 障がい者スポーツから社会参加を目指す

「健常者はスポーツをしたほうがよいが、障害者はスポーツをしなければならぬ。」  
車いすマラソン世界記録保持者ハインツ・フライ選手（スイス）

スポーツ

☆社会参加・自己実現につながる  
例：旅行に行く  
海やプールに出かける  
仕事に就く  
☆仲間づくりと情報交換の場（つながりの場）  
☆運動自体の効果に加え心理面の効果も

STEP 1：障がい者スポーツを紹介し、趣味活動や健康管理の一つとして  
例：レクリエーションの一つとして開催、スポーツをしている当事者に話してもらう

STEP 2：障がい者スポーツを体験し、クラブや教室へ（アレアスと連携）  
例：アレアスなどに行って体験、クラブや教室を紹介する、スポーツの場所に専門職も同行

STEP 3：障がい者スポーツへの支援を継続し社会参加を目指す  
例：スポーツで困っていることなどを確認し継続への支援をする  
スポーツから発展させて社会参加についての相談をし、目標設定を一緒に考える

### 地域包括ケア推進とリハビリテーション課題

- 1 <らしを再構築し、支えるリハの提供（医療・介護保険のリハ）  
入院・入所リハ、通所リハ、訪問リハ etc.
- 2 介護予防事業を通し社会参加の場作り  
市町の介護予防活動・サロン活動の支援 etc.
- 3 地域交流を通し、支え合いづくりの支援  
地域活動・老人クラブ大会への参加、ボランテニア育成、車椅子体験、認知症カフェ、認知症サポーター養成 etc.

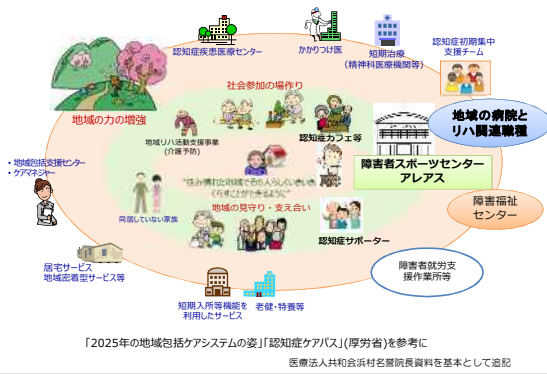
障がい者スポーツの必要性

アレアス等の関連施設との連携の重要性

リハビリテーション関連職種の関わり的重要性

出典：小倉リハビリテーション病院名誉院長村杉明徳先生資料を基に追記

## 地域みんなで支える障害者や認知症者のイメージ

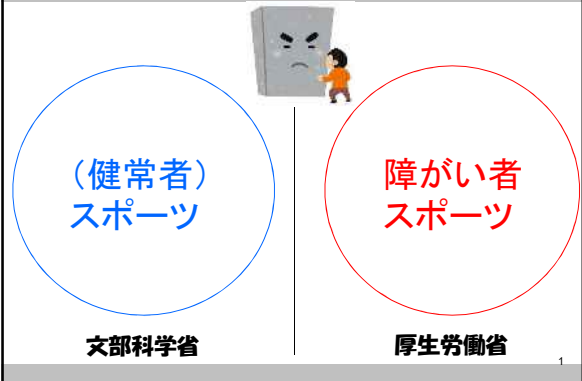


- ・リハビリテーション病院として障害者スポーツセンターアレアスと連携したいと思い、5年間が経過し、具体的な連携につながりました。
- ・まずは、アレアスに連絡をしてみてください。
- ・そして、障がい者スポーツを専門職も一度体験することを強くおすすめします。

「障がい者も健常者も共に考え楽しむスポーツ活動」  
～スポーツによる共生社会を目指して～

北九州市立大学  
基盤教育センター(地域創生学群)  
准教授 山本浩二

障がい者スポーツにおける日本の制度



障がい者スポーツの障壁

(健常者)スポーツと障がい者スポーツをわけることで、選手間の意識,そして、観る人の「観方」にも差異が生じる。



障がい者スポーツの障壁

2015年5月 リオ五輪に向けて強化練習中のハンドボール男子日本代表選手8人が、トレーニングセンターの宿泊施設で喫煙したとして、**嚴重注意処分**となった。

一方で・・・2015年11月国際車椅子バスケット大会(北九州)においては、**喫煙スペース**が設けられ、**日本代表選手も喫煙している!**

車椅子ソフトボール日本代表実話

2015年夏、車椅子の日本代表選手がアメリカでの大会に参加していた時の話。試合当日、選手2名が集合時間に5分遅れた。

日本代表コーチである健常者の人が「試合の日に集合に遅れるなんて、日本代表としてのプライドはあるのですか?」と叱責。

車椅子ソフトボール日本代表実話

障がい者Aさん

「あのね、いろいろと準備に時間がかかるんよ。健常にはわからんやろう。行動すべてに健常の倍はかかるんよ。」

日本代表コーチ

「人一倍時間がかかるとわかっているなら、なぜもっと早く起きて準備しないのですか? 大人でしょう? 日本代表して来てるのでしょうか? そんなの言い訳にすぎません。自覚がなさすぎます。」

障がい者Aさん

「なんやと! ?」

・・・しばらくやりとり続く・・・

## 障がい者スポーツの障壁

(健常者)スポーツと障害者スポーツをわけることで、選手間の意識,そして、観る人の「観方」にも差異が生じる。

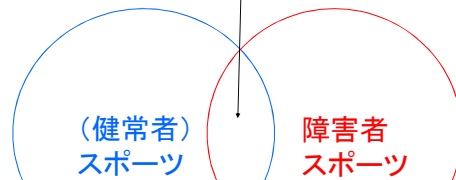


「かわいそう・・・」だとか、「辛そう・・・」だとか、そういう目で見えてしまいがち。競技スポーツとして見ていないのかも・・・。

6

## これからのスポーツ

### スポーツにおける共生社会



文部科学省 (スポーツ庁)

7

## 新しいスポーツの紹介

### 車椅子ソフトボール



## 車椅子ソフトボールとは

健常者も障がい者も男性も女性も一緒にできるスポーツ！！

車椅子ソフトボールとは、原則的にスローピッチ・ソフトボールの公式ルールに則って行われる10人制の車椅子スポーツ競技です。発祥地は米国で、約50年前から車椅子ソフトボール全米選手権が行われ、メジャーリーグチームのサポートを受けて運営しているチームも数多くあります。ジュニアや女子を対象とした大会もあり、車椅子スポーツとして広く浸透しています。

9

## チーム編成(クラス分け)について

障がいに応じて0点から3点に分けられます。

- ・ 健常者, 下肢切断・・・3点
- ・ 腹筋機能有り・・・2点
- ・ 腹筋, 背筋機能なし・・・1点
- ・ 頸椎損傷・・・0点 (クワード)



チーム内 (10名) で21点以内で構成。

10

## 健常者の参加は国内の大会のみ

健常者3点, 女性マイナス1.5点, 18歳以下マイナス1点

**これは日本独自のルール！**

「障がい者スポーツ」であっても、国内では、健常者も障がい者も関係なく同じ競技をやってもいい！

11

## 車椅子ソフトボール各種大会

- ・全日本選手権大会(北海道)(第7回)  
(7月6・7日)
- ・北九州車椅子ソフトボール大会(北九州市)(第7回)  
(2020年2月14・15日穴生ドーム)
- ・埼玉西武ライオンズカップ(埼玉)(第5回)  
(9月7・8日)
- ・中外製薬車椅子ソフトボール大会(東京都)(第3回)  
(10月5・6日)
- ・白馬村争奪杯(長野県)(第2回)(9月)



12

## 車椅子ソフトボールの特徴

健全者も障がい者も「一緒にやれる  
スポーツ」として認識され、競技人  
口も協賛企業も大いに増えた！



13

## 車椅子ソフトボールの実際

車椅子ソフトボールの試合の様子を  
実際に見てみましょう！！

14

## 車椅子ソフトボールの良い点

①同じフィールドで同じ競技ができる



## 車椅子ソフトボールの良い点

②移動の際、介助者がいない



## 車椅子ソフトボールの良い点

③障がいに対する理解が早い(容易)  
(経験から学べる)



17

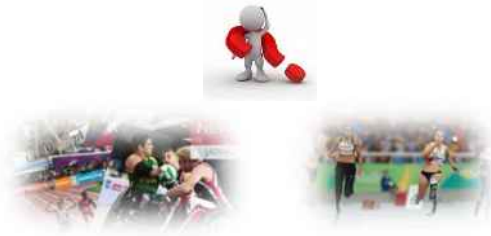
## 今後の展望

パラリンピックの正式種目になることを目指す！！



18

パラリンピックって障がい者しか出場できないのでは・・・。



19

## 車椅子ソフトボールに潜むパラドックス

車椅子ソフトボールの売りは、「**健常者と障がい者が一緒にやれること**」である。パラリンピックの正式種目になったら、障がい者しか出場できなくなる・・・。



20

## 今後の展望(個人的意見)

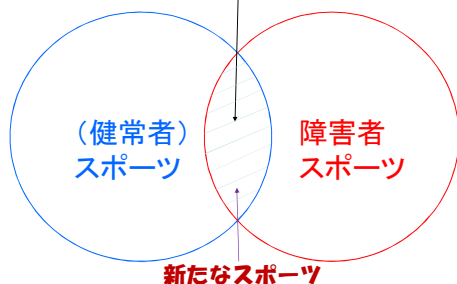
これまでは、全国に普及させることを目標にやってきた。幸い、多くの人に受け入れてもらった。規模が少しずつ大きくなった今、協会(連盟)にも加盟し、基盤ができてきた。

これまでの常識を覆し、「**新たなスポーツ**」として認識させていくべきであろう。目指すは(やはり)パラリンピック正式種目である。

21

## これからのスポーツ

### スポーツにおける共生社会



22

## 御礼

ご清聴に心より感謝いたします。



北九州市立大学  
基盤教育センター 地域創生学群  
准教授 山本 浩二  
Mail:kyamamoto@kitakyu-u.ac.jp

23



## 令和元年度地域リハビリテーションケース会議 特別セミナー

### 参加者アンケート集計結果

日 時：令和元年8月27日（火） 18：30～20：30

場 所：ウエルとばた 中ホール

参加者：133名

回答者：98名（回収率：74%）

#### ◆ 参加者属性 職種別

職 種	人数(人)	割合
医師	1	1.0%
歯科医師	0	0.0%
保健師	1	1.0%
看護師	1	1.0%
理学療法士	27	27.6%
作業療法士	15	15.3%
言語聴覚士	1	1.0%
MSW、相談員等	9	9.2%
ケアマネジャー	10	10.2%
介護職	11	11.2%
事務職、その他	22	22.5%
当事者	0	0%
計	98	

#### ◆ アンケート結果 ※参加者属性と重複するため、問2は省略

##### 問1 所属機関

	人数(人)	割合
病院	37	37.8%
教育機関	10	10.2%
介護老人保健施設等	9	9.2%
居宅介護支援	25	25.5%
訪問看護	0	0%
訪問リハ	1	1.0%
通所リハ	1	1.0%
障害者施設等	3	3.1%
統括・地域包括支援センター	0	0%
行政、その他	12	12.2%
計	98	

問3 経験年数

	人数(人)	割合
1～2年	12	12.2%
3～4年	8	8.2%
5～9年	21	21.4%
10～19年	35	35.7%
20～29年	11	11.2%
30年以上	7	7.1%
回答なし	4	4.2%
計	98	

問4 参加回数

	人数(人)	割合
はじめて	33	33.7%
2～3回	18	18.4%
それ以上	46	46.9%
回答なし	1	1.0%
計	98	

問5 今回の地域リハビリテーションケース会議特別セミナーに参加した目的は何ですか？

(複数回答可)

	人数(人)	割合
他機関の取り組みを知りたいから	52	44.8%
多職種の見聞が聞きたいから	48	41.4%
社会資源の情報を知りたいから	29	25.0%
上司や同僚に誘われたから	22	19.0%
その他	9	7.8%
情報整理の方法を知りたいから	8	6.9%
連駅の方法を知りたいから	7	6.0%
回答なし	7	6.0%

(自由記載)

- ・興味があったため
- ・スポーツの話を聞きたかった
- ・高齢者にも取り入れられないか考えたため

問6 今回の地域リハビリテーションケース会議は参考になりましたか？

	人数(人)	割合
参考になった	92	93.9%
普通	4	4.1%
参考にならなかった	1	1.0%
回答なし	1	1.0%
計	98	

そう思った理由	人数(人)
障害者スポーツのことが理解でき、今後の業務に活かすことができると思った	25
様々な視点で障害者スポーツについて聞くことができ、視野が広がった	6
実際に利用できる施設や、連携などを知ることができた	3
障害者スポーツを紹介したいと思った	2
社会参加の取組みについて知ることができた	2
座学では学ぶことができないことが学べた	2
障害があっても、可能性がたくさんあることを学べた	2
多職種での連携が重要であることがわかった	2
健常者も障害者も同じ様に楽しんでスポーツを行い社会参加(共生)することが大事だと感じた	1
沢山の団体があり、障害があってもスポーツを楽しんでいることに可能性を感じた	1

問7 今後も地域リハビリテーションケース会議に参加したいと思いますか？

	人数(人)	割合
参加したい	89	90.8%
わからない	6	6.2%
思わない	1	1.0%
回答なし	2	2.0%
計	98	

問8 今後、どのような事例を取り上げて欲しいですか？（3つまで可）

	人数（人）	割合
障害者・難病患者の在宅事例	40	40.8%
介護予防関係の事例	35	35.7%
インフォーマルの利用事例	32	32.7%
施設での取り組み事例	30	30.6%
福祉用具・在宅改修の活用事例	24	24.5%
終末期患者の在宅支援事例	18	18.4%
回答なし	7	7.1%
その他	4	4.1%



（自由記載）

- ・「芸術」について
- ・在宅での栄養管理について
- ・介護上でのトラブル事例等